

これは何でしょうか？ キノコでした!!

2024/10/18 YA

10月15日に仲良し3人娘が正丸峠経由で伊豆ヶ岳に登りました。その帰り道でこんな風変わりなもの（下図参照）に出会いました。キノコでした。



① エリマキツチグリ（襟巻土栗）



② ナギナタタケ（薙刀茸） or キソウメンタケ（黄素麺茸）

補足 (by TI)

① エリマキツチグリ（襟巻土栗）

幼菌は二重の袋状といった構造で、中で胞子がつくられ、成熟していきます。胞子が成熟すると、外袋である外皮がてっぺんから 4～7 片に裂けて星形に開き、胞子が入っている球状の内袋が現れます。外皮（殻皮）の内層は、襟巻状に剥離することが多く、この特徴が名前の由来になっています。

胞子が入った内袋のてっぺんには穴が空いていて、降雨や動物に踏まれるなどの刺激を受けると、そこからぶわっと胞子を放出します。

このキノコは地中生とか半地中生とか言われており、幼菌のときはほぼ球形で地中に埋まっています。

② ナギナタタケ（薙刀茸）と キソウメンタケ（黄素麺茸）

ナギナタタケ（薙刀茸）と キソウメンタケ（黄素麺茸）はよく似ており、その比較表を示します。

表1 ナギナタタケ（薙刀茸）と キソウメンタケ（黄素麺茸）の比較表

	ナギナタタケ（薙刀茸）	キソウメンタケ（黄素麺茸）
形状	成長すると 10cm 程度になる、細長く平たい形をした紡錘状	高さが 2～7cm くらいの細長いこん棒状、上から見ると円形、または少し潰れた楕円形
色	鮮黄色～帯褐黄色、古くなると退色して類白色となり、先端部が褐色となり収縮	表面は黄色でわずかにオレンジ色を帯びている
発生状況	数本～10 数本で束になって発生	単生が多く、群生や少数の束生もあり
柄の有無	柄が無い：先端から根元まで同じ質感	根元に柄有り：根元と本体の肉質に違いあり 柄の部分はやや細くなっており、淡い黄色または白色で太さは上から下までほとんど変化なし